



たかみらいふ!

～「たかみ」「みらい」「らいふ」～



文責：コミュニティ・スクール推進員 大空 秀文

タイトル「たかみらいふ！」には、「高美が丘小・中学校を意味する「たかみ」「まちの未来を意味する「みらい」「地域での生活を意味する「らいふ」という言葉があり、小・中学校と地域がさらにつながり、輝く未来を生きていこう!という思いがあります。高美が丘小・中学校HP、高美が丘地域センターでカラー版掲載中!

高美が丘の 風になる

「たかみらいふ！」第9号では、高美が丘小学校の伝統、「高美が丘の風」についてご紹介します。

○高美が丘小学校の伝統「高美が丘の風」とは

「高美が丘の風」は、高美が丘小学校の6年生に代々受け継がれる合奏・合唱曲です。新設された高美が丘学区に新たに集った子ども達の絆や仲間意識を深めることを目的に、平成7年に開校時の音楽科の教諭によって作成されました。「高美が丘の風」は、高美が丘学区ができる以前から杵原や高屋堀に伝わる「白市音頭」、「白市小唄」、「白鳥踊り」をもとにしており、子ども達が演奏できるようにそれらをアレンジした「No.1」「No.2」「No.3」に、高美が丘小学校の校歌をもとにした「さわやかな風がふいてきた」を加えて編成されました。

その後、次の音楽科の教諭によって曲名が「現在」「過去」「大地」「未来」にそれぞれ変更され、さらに時代とともに高美が丘小学校の教職員によって新たな曲が創造され、曲の深みが増していきました。

○「高美が丘の風」を受け継ぐということ ～『あしたに向かって』～

「高美が丘の風」は、高美が丘小学校の6年生が歴代の6年生たちの夢や志を受け継ぎ、次代の6年生に託してきたことで、今なお高美が丘小学校の伝統として存在しています。しかし「高美が丘の風」は、ただ先代と同じ合奏・合唱をこなすことで受け継がれるのではなく、ここには高美が丘小学校の学校教育目標『あしたに向かって』の精神が流れています。『あしたに向かって』には、「あしたに向かって+伸びる+子どもと教師と学校」、「自ら考え、学び、判断し、行動する子どもであり、教師であり学校」という意味があります。どの代の6年生も、「高美が丘の風」に真摯に向き合い、音やリズム、歌詞の意味を試行錯誤しながら自分たちで解釈することで、自分たちだけの「高美が丘の風」を生み出していきます。「高美が丘の風」は、ただ形として受け継がれる合奏・合唱曲ではなく、“あしたに向かう”高美が丘小学校の児童や教職員の生き様の現われであり、現在に至る高美が丘小学校の風土を形成しています。

～「高美が丘の風」系譜図～ ※裏面に歌詞を掲載しています

| | H.7年 | H.17年 | H.18年頃 | H.28年～R.2年現在 |
|----------|---------------------|-----------------------|--------------|----------------------------|
| | さわやかな風が ふいてきた | 現在 | 現在 | 現在 |
| 白市音頭 | No.1 | 過去 | 過去 | 過去 |
| 白市小唄 | No.2 | 大地 | 大地 | 大地 |
| 白鳥踊り | No.3 | 未来 | 未来 | 未来 |
| | | 風になる | 風になる | 風になる |
| | | | 私たちのまち高美が丘 | 私たちのまち高美が丘 |
| | | | 夢の向こうに | 夢の向こうに |
| 披露 の場 | 高屋・白市民謡 高屋・白市盆踊り | 学芸発表会 学習発表会 夏祭り | 夏祭り 学習発表会 | 高美が丘プロジェクト 夏祭り 学習発表会 |

○二十六代目 「高美が丘の風」 威風堂々たる披露

11月14日(土)の学習発表会で、二十六代目となる「高美が丘の風」が披露されました。今年度は、さまざまな学校行事が縮小・中止されるなか、6年生としての感謝の気持ちを表すため、代々受け継がれてきた「高美が丘の風」を絶やさないため、「高美が丘の風」に日々向き合う6年生の姿を“下級生たちが見て学ぶ”高美が丘小学校の風土を守るために、「高美が丘の風」は実施されました。6年生は、休業明けの6月から学習発表会まで日々研鑽に励み、彼らの歌声や楽器の響きはあおぞら広場や体育館を中心として学校全体に連日鳴り渡り、「高美が丘の風」に向かう彼らの姿は、下級生たちに最高学年としての威厳を示し、活力を与えました。このような道のりを経て、学習発表会では、二十六代目として堂々と「高美が丘の風」を見事に披露しました。



○“なぜ”高美が丘の「風」なのか ～「土」とともにある「風」～

これまで、「高美が丘の風」についてご紹介してきましたが、では、なぜタイトルが高美が丘の「歌」でも、高美が丘の「響き」でも、高美が丘の「夢」でもなく、他ならぬ高美が丘の「風」なのでしょう。

「高美が丘の風」を作曲された方へのインタビューによると、作曲中に高美が丘の胡麻古墳に上ったことがあり、その時にすごく気持ちのよい風が吹いてきたそうです。そこで、高美が丘学区に吹き込む風に、高美が丘学区に新たに集った子どもを重ねたことで、タイトルを「高美が丘の風」にしたそうです。

その後、「高美が丘の風」は10年の時を経て、「風になる」が新たに追加されました。「風になる」には、ふるさとの高美が丘学区の情景を綴った歌詞や「いつかぼくもふるさとの風になる」という歌詞があり、子ども達が高美が丘学区で育つことで高美が丘学区の風になるという思いが伝わってきます。10年の時を経て、「高美が丘の風」は、「新たにこの土地に集った風」から「この土地で育つ風」となっていました。

さらに10年が経ち、「高美が丘の風」は、「高美が丘プロジェクト」に位置づけられ、1年生から続く「高美が丘プロジェクト」の集大成として、この土地で獲得した多くの学びやこの土地やこの土地の人への感謝が込められる「高美が丘の風」になりました。今年度では、コミュニティ・スクールを通して、子ども達は“主人公”として学校や地域づくりについて考え、この土地を創る者として「高美が丘の風」を披露するまでに至りました。

「風土」という言葉が「風」と「土」によって形成されるように、「高美が丘の風」はこの土地とも存在することで、その深みを生み出してきました。だからこそ、「高美が丘の風」は他ならぬ「風」であるのです。

『夢の向こうに』

作詞・作曲 高美が丘小学校職員一同

『風になる』

ふるさとの 空は青く すみわたり 草も花も みんなぼくらに ほほえむ

ふるさとの 風はいつも あたたかく 今 このときを いつかどこかで 思い出す

人は風に 昔をおもい 人は風に 未来をつなぐ

今（今） ぼくらは（ぼくらは） 風に（風に） 風になる 未来見つめ 明日に向かって

今（今） ぼくらは（ぼくらは） 風になる

いつか（いつか） ぼくらは（ぼくらは） ふるさとの 風になる

『私たちの町 高美が丘』

緑あふれる 高美が丘に 僕らの町は広がっている

小鳥がさえずる素敵な町並み 行き交う人の声明るく

町を包む山並みが 私に語りかける

心の扉ひらいて 歩いてみようよ

（かんじよう）人のやさしさ 人のぬくもり 僕らはひとりじゃないさ

（つたえよう）声を合わせて かなでようよ

素直なこの気持ち 高美が丘に ルルルルル

朝日を浴びて 小川がきらめき 山の鳥たちが ルルル目覚める

静かに始まる 新しい一日は まだ見ぬわたしの 未来へとつづく・・・

心に芽生えた わたしの大切な夢が 希望と勇気の 翼をくれた

空がつづく限り 夢を追いつづけよう

たとえ今日が つらい日でも

夢の向こうに 未来がきっと待っているよ

あきらめずに 明日に向かって

夕日をせおい 木々がゆらめき

川の魚たちが ラララねむるよ

静かに終わる 大切な一日は

まだ見ぬ私の 未来へとつづく・・・

無限に広がる 宇宙の星たちのように

ぼくらの夢が きっと輝くよ

空がつづく限り 夢を追いつづけよう

たとえ今日が悲しい日でも

夢の向こうに 未来がきっと待っているよ

あきらめずに 明日を信じて

空がつづく限り 夢を追いつづけよう

たとえ今日が つらい日でも

夢の向こうに 未来がきっと待っているよ あきらめずに 明日に向かって